PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

2000-069967

(43) Date of publication of application: 07.03.2000

(51)Int.Cl.

C12N 15/09 // C12N 1/20 C12N 9/02 C12N (C12N 15/09)C12R **C12R** 1:01 1/20 (C12N C12R 1:38 (C12N 1/20 **C12R** 1:01 (C12N 1/21 **C12R** 1:19 (C12N 9/02 C12R 1:19

(21)Application number: 10-297665

(71)Applicant: JAPAN SCIENCE & TECHNOLOGY

CORP

(22)Date of filing:

27.08.1998

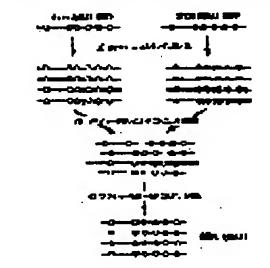
(72)Inventor:

FURUKAWA KENSUKE KUMAMARU TETSUYA

(54) GENE ENCODING ENZYME DECOMPOSING PCB AND ITS RELATED COMPOUND

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a chimeric gene capable of efficiently decomposing many kinds of PCB compound and useful e.g. for environmental purification by encoding the terminal dioxygenase large subunit of biphenyl dioxygenase decomposing PCB and the like. SOLUTION: This chimeric gene is obtained by recombining a gene encoding the terminal dioxygenase large subunit derived from different kinds of PCBdecomposing bacteria, such as Pseudomonas pseudoalcaligenes KF strain and Burkholderia cepacia LB 400 strain through DNA shuffling and encodes the terminal dioxygenase large subunit of biphenyl dioxygenase decomposing PCB and its related compounds. This chimeric gene encodes an amino acid sequence of formula I and consists of a base sequence of formula II.



sibales el cultoral o Albandia forciális misolistica (19119): 0

Π

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

08.04.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-69967

(P2000-69967A) (43)公開日 平成12年3月7日(2000.3.7)

(51) Int.Cl. ⁷	•	識別記号		FΙ				テーマコート*(参考)
C 1 2 N	15/09	ZNA		C 1 2 N	15/00		ZNAA	
// C12N	1/20				1/20	•	F	
		ZAB					ZABD	
	1/21				1/21			•
	9/02		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		9/02			
			審査請求	未請求 請	求項の数 6	FD	(全 12 頁)	最終頁に続く

(21)出願番号

特願平10-297665

(22)出願日

平成10年8月27日(1998.8.27)

特許法第30条第1項適用申請有り 平成10年3月5日 社団法人日本農芸化学会発行の「日本農芸化学会誌 第 72巻臨時増刊号」に発表 (71)出願人 396020800

科学技術振興事業団

埼玉県川口市本町4丁目1番8号

(72)発明者 古川 謙介

福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大

学 農学部農芸化学科内

(72)発明者 熊丸 哲也

福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大

学 農学部農芸化学科内

(74)代理人 100087675

弁理士 筒井 知

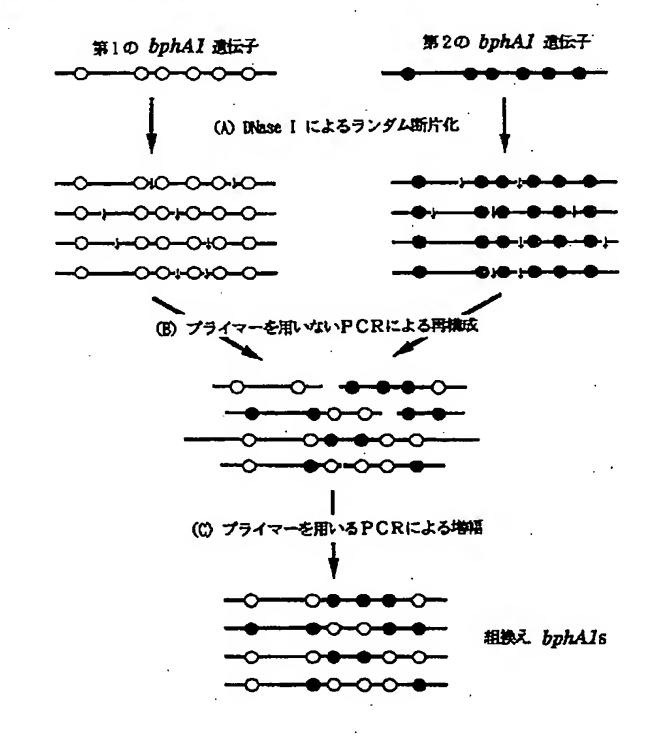
(54) 【発明の名称】 PCBおよび関連化合物を分解する酵素をコードする遺伝子

(57)【要約】

(修正有)

【課題】 可及的多種類のPCB(ポリ塩化ビフェニル) 化合物の分解に寄与し得るPCB分解遺伝子の取得によるPCBの効率的な分解技術の提供。

【解決手段】 異種のPCB分解菌由来のビフェニルジオキシゲナーゼの末端ジオキシゲナーゼ大サブユニットをコードする遺伝子をDNAシャフリングにより組換えることによって得られ、広範なPCB及び関連化合物(ベンゼン、トルエン、ジフェニルメタン、ジベンゾフラン等)を分解するビフェニルジオキシゲナーゼの末端ジオキシゲナーゼ大サブユニットをコードしているキメラ遺伝子。キメラ遺伝子を得るための異種のPCB分解菌の好ましい例は、シュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株及びバーコルデリア・セパシアLB400株である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 異種のPCB分解菌由来のビフェニルジオキシゲナーゼの末端ジオキシゲナーゼ大サブユニットをコードする遺伝子をDNAシャフリングにより組み換えることによって得られ、PCBおよび関連化合物を分解するビフェニルジオキシゲナーゼの末端ジオキシゲナーゼ大サブユニットをコードしていることを特徴とするキメラ遺伝子。

【請求項2】 異種のPCB分解菌が、シュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株およびバーコル 10 デリア・セパシアLB400株である請求項1の遺伝子。

【請求項3】 配列番号1のアミノ酸配列をコードしている請求項2の遺伝子。

【請求項4】 配列番号2の塩基配列から成る請求項3 の遺伝子。

【請求項5】 配列番号3のアミノ酸配列をコードしている請求項2の遺伝子。

【請求項6】 配列番号4の塩基配列から成る請求項5 の遺伝子。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、環境汚染物質であるPCBおよびその関連化合物の効率的な分解を触媒する酵素タンパク質をコードする新規な遺伝子に関する。 【0002】

【従来の技術】PCB(ポリ塩化ビフェニル)は、絶縁剤、熱媒体、塗料、感圧紙などに広く使用されていたが、その有害性が指摘されて以来、生産は中止されている。しかしながら、過去に大量に生産された一部のPCBは、未処理のままで廃棄されて土壌や地下水を汚染したり、ゴミ燃焼によりダイオキシンを発生して大気汚染をもたらし深刻な社会問題となっている。

【0003】PCBはビフェニルに塩素ガスを直接吹きつけて製造され、塩素の付加する数(1~10)と置換位置の違いにより理論上、209種類の化合物ができるが、いずれも、化学的にきわめて安定であるので、これを処理して無害化することは非常に困難である。PCBの無害化処理には、高温で完全に焼却したり、硫黄を加えて加熱し樹脂状の化合物にする等の方法が提示されているが、これらの方法は、自然環境に放出されたPCBの処理には適用できない。自然環境中に薄く広がったPCBの処理は自然界に存在する微生物による分解にまたねばならない。微生物は古来より環境に存在する多種多様の物質を分解資化する機能を獲得してきたので、これを利用するのである。

【0004】PCBの分解については、ビフェニルを炭素源として生育する土壌細菌が広く存在し、これらがPCBを部分的に酸化分解(コメタボリズム)することが明らかにされて以来、世界中で多くのPCB分解菌が分 50

離されている。これまで分離されたPCB分解菌はグラム陰性細菌が多いが、最近、グラム陽性細菌も分離されている。前者の例はPseudomonas、Burkholderia、Acinetobacter、Achromobacterなどであり後者はRhodococcusである。これらのPCB分解菌について、その分解機能が検討され、さらに、幾つかの菌株からPCB分解遺伝子(PCB分解を触媒する酵素をコードする遺伝子)も単離され塩基配列が決定されている。

【0005】土壌細菌によるPCBの分解は、塩化安息香酸への酸化分解であり、この分解には4つの酵素が関与することが明らかにされている(古川ら、Biodegradation5:289-300 (1994))。すなわち、酵素分子のビフェニル環への導入はビフェニルジオキンゲナーゼ(BPDのx)により触媒され、生じたジヒドロジオール化合物はデヒドロゲナーゼによりジオール(フェニルカテコール)へ変換される。次いで、環開裂ジオキンゲナーゼによりメタ開裂黄色化合物へと変換され、ヒドロラーゼにより塩化安息香酸へと分解される。

【0006】しかしながら、これまで分離されたPCB分解菌は、それぞれ、多種類存在するPCB化合物のうち専ら特定の化合物を分解するにすぎない。例えば、代表的なPCB分解菌株であるシュードモナス・シュードアルカリゲネス(Pseudomonaspseudoalcaligenes) KF707株とバーコルデリア・セパシア(Burkholderiacepacia) LB400株とを比較すると、KF707株はパラ位に塩素置換したPCBなどの塩素数1~3の低塩化PCBを良く分解し、一方、LB400株は2,5一位に塩素置換したPCBなどの塩素数4~5の高塩化PCBを分解する。PCBの効率的な分解には、多種類のPCB化合物を同時に分解できるようなPCB分解遺伝子の存在が望まれるが、そのような遺伝子は未だ見出されていない。

[0007]

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、可及的に多種類のPCB化合物の分解に寄与し得るようなPCB分解遺伝子を取得して、PCBの効率的な分解を行うことのできる技術を確立することにある。

[0008]

【課題を解決するための手段】本発明者は、上述の目的を達成するために研究を重ねた結果、各種のPCB分解菌由来のビフェニルジオキシゲナーゼの大サブユニット(末端ジオキシゲナーゼの大サブユニット)の遺伝子間でランダムな組換えを行うことにより、親株よりも広範なPCB分解特性を示し、しかも、その他の化合物(以下、関連化合物という)も併せて分解することのできるPCB分解遺伝子を得ることができることを見出し本発明を完成した。

【0009】すなわち、本発明は、異種のPCB分解菌 由来のビフェニルジオキシゲナーゼの末端ジオキシゲナ ーゼ大サブユニットをコードする遺伝子をDNAシャフ リングにより組み換えることによって得られ、PCBおよび関連化合物を分解するビフェニルジオキシゲナーゼの末端ジオキシゲナーゼ大サブユニットをコードしていることを特徴とするキメラ遺伝子を提供する。

【0010】本発明のキメラ遺伝子を得るための異種のPCB分解菌の好ましい例は、シュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株およびバーコルデリア・セパシアLB400株であり、これから得られるキメラ遺伝子の好ましい具体例は、配列番号1のアミノ酸配列をコードする遺伝子または配列番号2から成る遺伝子、および配列番号3のアミノ酸配列をコードする遺伝子または配列番号4から成る遺伝子である。

[0011]

【発明の実施の形態】本発明が対象とするビフェニルジオキシゲナーゼ(BP Dox)は、多成分酵素であり、酵素を活性化し、基質に添加する末端ジオキシゲナーゼ(Bp hA1/BphA2)とNADHからの電子の伝達に関与するフェレドキシン(BphA3)とフェレドキシン還元酵素(BphA4)から構成される。末端ジオキシゲナーゼは鉄・硫黄を含むタンパク質であり、大サブユニット(BphA2)の二つのサブユニットがA13 A23 のヘテロヘキサマーとして会合している(古川ら、Biodegradation_5:289-300(1994))。

【0012】そして、各種のPCB分解菌株を比較すると、それらの間にはBphA1における少数のアミノ酸に違いが存在するが、残りの構成分は実質的に同一であることが明らかにされている(F. Mondello他、Appl. En viron. Microbiol., 63: 3039-3103 (1997))。例えば、上述のシュードモナス・シュードアルカリゲネスK 30 F707株とバーコルデリア・セパシアLB400株とでは、BphA1を構成する459個のアミノ酸のうちの20個のアミノ酸が相違するが、BphA2は僅か1個のアミノ酸が違うのみで、BphA3およびBphA4は同一である(古川ら、J. Bacteriol. 179: 3936-3943 (1997))。

【0013】本発明者は、これらの事実に注目し、複数のPCB分解菌由来のBphA1をコードする遺伝子(bphA1)の間でランダムな組換えを行い親株のPCB分解菌と可及的に異なる配列のbphA1遺伝子が40得られるようにすることにより、これまでに見出されたPCB分解菌に見られない広範なPCBの分解、さらにはその関連化合物の分解を触媒する酵素(キメラ酵素)をコードするキメラbphA1遺伝子を調製する手法を確立した。なお、本明細書において用いる「関連化合物」という語は、一般に、ベンゼン、トルエン、フェノールのような単一個のベンゼン環から成る芳香族化合物、およびビフェニル化合物(例えば、4ーメチルビフェニル)、ジフェニル化合物(例えば、ジフェニルメタン、ジフェニルエタン)またはジベング化合物(例え

ば、ジベンソフラン)のような2個のベンゼン環から成る芳香族化合物を指称する。さらに、本発明に従えば、トリクロルエチレンのような低級脂肪族化合物の分解を触媒する酵素をコードするbphA1遺伝子を得ることも可能である。

【0014】本発明に従い、複数の異なるPCB分解菌由来のBphA1遺伝子間でランダムな組換えを生じさせキメラbphA1遺伝子を得るには、DNAシャフリングと呼ばれる手法を用いる。DNAシャフリングとは、Stemmerによって案出されたDNAの組換え法であり(W.P.C. Stemmer, Nature 370: 389-391(1994); W.P.C. Stemmer, Proc. Natl. Acad. Sci. USA 91: 10747-10751(1994))、組換えを行おうとする複数種の遺伝子を混ぜ合わせてランダムに断片化し、得られた小断片DNAに対しプライマーを入れない自己プライミングPCR(self-priming PCR)(PCR:ポリメラーゼ連鎖反応)を行わせて再構成したDNAを増幅することによりキメラDNAを調製するものである。

【0015】このようなDNAシャフリング法を用いて本発明のキメラbphA1遺伝子を構築する工程を図1に沿って説明すると次のようになる。

(1) 異種のPCB分解菌から得られた第1のbphA 1遺伝子と第2のbphA1遺伝子とを混合し、DNa selのようなエンドヌクレアーゼでランダムに断片化 して、10~50bpのDNAを回収する(図1の (A))。

【0016】(2)上記の工程で得られた小断片DNAにプライマーを用いないでPCRを行う。これによって、小断片DNA自身がお互いにプライマーとして働き、第1のbphA1遺伝子と第2のbphA1遺伝子が組み換えられて再構成された新たなbphA1キメラDNA群が得られる(図1の(B))。このPCR反応において用いるDNAポリメラーゼとしては、従来から一般的に使用されているTaq DNAポリメラーゼよりは、PfuやPwoのようなproofreading機能(ミスマッチした塩基の結合を校正する機能)を有するDNAポリメラーゼが好ましく、これによって、活性なビフェニルジオキシゲナーゼを発現するクローンを得る頻度が高くなる。

【0017】(3) 次いで、得られたキメラBphA1 遺伝子を、bphA1のオリゴマーから成るプライマー を用いるPCRに供して増幅し、1.4 k bの組換えキメ ラbphA1群を得る(図1の(C))。

【0018】(4)以上のようなDNAシャフリング法によって得られた組換えbphA1遺伝子をbphA2A3A4BC(BPDoxにおいてBphA1に後続する酵素成分をコードする遺伝子)を有するプラスミドベクターの上流に連結し(図2参照)、これを大腸菌に形質転換し、ビフェニルから黄色化合物を生成するクローンを選択する。

【0019】(5)選択したクローンの組換えりphA 1遺伝子を上記(4)と同様にりphA2A3A4BC を有するプラスミドベクターの上流に連結し、これを大 腸菌に導入、発現させ、その発現産物(通常は、大腸菌 の静止菌体中に発現された酵素)について各種PCBお よび関連化合物の分解能を試験する。

【0020】本発明に従えば、以上のようにDNAシャフリングを利用して異種のPCB分解菌由来のビフェニルジオキシゲナーゼ(BP Dox)の大サブユニット(末端ジオキシゲナーゼの大サブユニット:BphA1)をコロードする遺伝子(bphA1)をランダムに組み換えることにより、PCBおよび関連化合物を分解するBP DoxのBphA1をコードするキメラbphA1遺伝子を得ることができる。本発明は、これまで分離されているようないずれのタイプのPCB分解菌にも適用できるが、PCB分解特性が互いに本質的に異なる異種のPCB分解菌、例えば、前述したような専ら低塩化PCBを分解するシュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株タイプのPCB分解菌と高塩化PCBを分解するパーコルデリア・セパシアLB400株タイプのPCB分解菌を使用するのが好ましい。

【0021】本発明が適用される異種のPCB分解菌の組合せの特に好ましい例は、シュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株とバーコルデリア・セパシアLB400株である。シュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株は、北九州で分離され、FERMP-8297として寄託されている(古川ら、J.Bacteriol. 166: 392-398 (1986)参照)。また、バーコルデリア・セパシアLB400株は、米国ニューヨーク州で分離され、米国のアグリカルチュラル・リサーチ・30センター(the Agricultural Research Center)に寄託番号NRRLB18064として寄託され同センターから入手できる(D. L. Bedard他、Appl.Environ. Microbio 1., 51: 761-768 (1986) ; L. H. Bopp, J. Ind. Microbiol., 1: 23-29 (1986) 参照)。

【0022】本発明に従いシュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株とバーコルデリア・セパシアLB400株を用いて得られ、PCBおよび関連化合物を分解するBPDoxのキメラbphA1遺伝子の好ましい具体例は、配列番号1のアミノ酸配列をコードする遺伝子、または配列番号2から成る遺伝子である。この遺伝子は、低塩化PCBおよび高塩化PCBのいずれも優れた分解能を有するとともに、ジベンゾフランやジフェニルメタンのような化合物に対しても分解能を有するBPDoxのキメラbphA1遺伝子であることが確かめられている。

【0023】本発明に従いシュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株およびバーコルデリア・セパシアLB400株から得られるキメラbphA1遺伝子の別の好ましい具体例は、配列番号3のアミノ酸配列を50

コードする遺伝子または配列番号4から成る遺伝子である。この遺伝子は、低塩化PCBおよび高塩化PCBのいずれにも優れた分解能を有するとともに、ジベンゾフランやジフェニルメタンのような化合物、さらには、ベンゼンやトルエンのような単環芳香族化合物に対しても分解能を有するBP DoxのキメラbphA1遺伝子であることが確認されている。

6

【0024】以下、本発明をさらに説明するため、シュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株(以下、単にKF707株という)とバーコルデリア・セパシアLB400株(以下、単にLB400株という)を用いて本発明のキメラ遺伝子を調製する場合の実施例を示すが、本発明の原理は他のPCB分解菌を用いる場合にも同様に適用され得るものである。

[0025]

【実施例】 DNaseIによるランダム断片化: KF7 07株由来のbphA1とLB400株由来のbphA 1の1:1DNA混合物(全量2μg)を蒸留水で90 μlに稀釈し、これに10倍濃度バッファー液(1Mの トリスーHC1、pH7.5+10mMのMnCl2) 1 Ομ1を添加した。得られた反応物 (最終容量100μ 1) を15℃で6分間、DNaseI (0.15U/10 Ομ1; 宝酒造製)を用いて分解(断片化)した後、8 0℃で10分間加熱することにより分解反応を停止させ た。分解反応後のDNAを2%の低融点アガロースゲル (宝酒造製)上で電気泳動させ、Whatman 社(英国Mald stone 在) 製DE 8 1 イオン交換紙を用いて 1 0 ~ 5 0 bpのDNA断片を回収した。1MのNaClを用いて 溶出後、該DNAをフェノール/クロロホルム混合液 (1:1)で抽出し、さらに冷エタノールで沈殿させ た。

【0026】プライマーを用いないPCRによる再構 $\underline{\text{R}}$: 上記のようにして断片化されたDNA($100\sim2$ 00 ng)を 10μ 1のPCRプレミックス〔5倍濃度 Pfuバッファー液、各dNTP濃度 $0.4\,\text{mM}$ 、 $0.1\,\text{U}$ / μ 1のPfuポリメラーゼ(米国カリフォルニア州La gollaのStratagene社製)〕に添加してPCRを行った。PCRの各工程の条件は次のとおりであり、45 サイクル実施した:2 本鎖DNAの変性、94 ℃で1 分間;プライマーアニーリング、52 ℃で1.5 分間;プライマー中長、72 ℃で1 分間。

【0027】プライマーを用いるPCRによる増幅:上記のようなプライマーを用いないPCRにより得られた生成物に対して、bphA1遺伝子のプライマーを用いて再度PCRを実施した。用いたプライマーは、5'ーCCGAATTCAAGGAGACGTTGAATCATGAGCTCAGC-3'(配列番号5)および5'ーTTGAATTCTTCCGGTTGACAGATCT-3'(配列番号6)である。

【0028】上記のプライマーを用いないPCR生成物

の100倍稀釈液の 1μ 1を鋳型として25サイクルのPCRを行った。PCRの条件(最終容量 50μ 1)は次のようにした:各プライマーの量50pmol、等倍濃度Taqバッファー液、2.2mMのMgCl2、各dNTPの濃度0.2mM、Taq/Pfu(1:1)混合物の量1.25U。PCRの各工程の条件は、上記のプライマーを用いないPCRの場合と同じにした。但し、最終サイクルの伸長工程は10分間とした。0.7%のアガロースゲルを用いる電気泳動法により、1.4kbの増幅bphA1遺伝子が得られたことを確認した。

【0029】 bphA1遺伝子のクローニング

上記のようにして得られたPCR生成物をSacIおよびBglIIで酵素分解し、アガロースゲル電気泳動法により精製し、プラスミドベクターpJHF18 Δ MIuIのSacI/BglII切断部位に連結した。得られた組換えプラスミドを大腸菌エシェリヒア・コリXL1-Blue(米国stratagene社製)に形質転換し、50 μ g/mlのアンピシリンおよび0.1mMのイソプロピルー β -D-チオガラクトピラノシドを含有するLB寒天上にまいた。ビフェニル蒸気から環開裂黄色化合物を生成するコロニーを陽性クローンとして選択した。

【0030】なお、プラスミドベクターp J H F 18 Δ M l u I は、アンピシリン耐性遺伝子を含みK F 7 0 7 株由来のb p h A 1 A 2 A 3 A 4 B C 遺伝子を有するプラスミド p J H F 18 (古川ら、Gene 138: 27-33)を M l u I により酵素分解して4ーD N A ポリメラーゼでエンドフィリングすることによりb p h A 1 遺伝子の部分を分解除去した(Δ b p h A 1)プラスミドであり、上記のようにDNAシャフリングで得られた組換えキメラb p h A 1 遺伝子をSac I およびB g l I I の両方で酵素分解して該プラスミドと反応させると、該キメラb p h A 1 遺伝子は Δ b p h A 1 の部分に入りb p h A 2 の上流に連結させることができる(図 2 参照)。

【0031】 PCBおよび関連化合物の分解能試験 以上のようにして選択した陽性クローンのキメラbph A1遺伝子を上記と同様にプラスミドベクターpJHF 18 Δ M lu Iのbph A 2の上流に連結し、これを大 腸菌エシェリヒア・コリJM109株(米国stratagene 社製)に導入、発現させた。すなわち、該形質転換大腸 菌を対数増殖期(600nmにおける濁度0.8~1.2) まで培養した後、50mMのリン酸カリウムバッファー 液(pH7.5)で2回洗浄し、さらに同じバッファー液 20ml中に懸濁させて600nmにおける濁度1.0と なるように調整した。

【0032】このようにして調製した大腸菌の静止菌体に、エタノールに溶かしたPCBおよび関連化合物を濃度20μg/mlとなるように添加した。1~6時間、200rpmで遠心分離して得た2mlの上清について、以下の波長における吸光度を測定することにより、各種のビフェニル化合物由来のメタ開裂黄色化合物の生

成量を調べた:ビフェニル434nm;4ーメチルビフェニル437nm;ジフェニルメタン395nm;ジベンゾフラン(DF)465nm;2,2'ージクロロビフェニル(2,2'ーCB)393nm;2,5,4'ートリクロロビフェニル(2,5,4'ーCB)412nm;4ークロロビフェニル(4CIBP)438nm。

8

【0033】なお、KF707株およびLB400株についても、同様に、大腸菌JM109株を用いる発現実験を行い、PCBおよび関連化合物の分解能試験を行った。その結果、クローニングにより選択された6種の陽性クローンのキメラbphA1遺伝子を含むプラスミドで形質転換された組換え大腸菌のうち2種は、特に優れたPCBおよび関連化合物に対する分解能を示した。

【0034】すなわち、組換え大腸菌のうち1種は、ビ フェニルに対しては、KF707株の1.8倍、LB40 O株の2.3倍、4ークロルビフェニルに対してはKF7 0 7株の1.2倍、LB400株の1.5倍、4,4′ージ クロルビフェニルに対してKF707株の1.8倍(LB) 400株はこの化合物に対する活性を有しない)の分解 活性を示した。また、2,5,4'ートリクロロビフェ ニルに対しては、LB400株と同様に2,5ージクロ ルリングの3, 4-位に酸素分子を導入(KF707株 は4'ーリングの2,3一位に導入)することができ、 その活性は2.1倍であり、2,5,2',5'ーテトラ クロロビフェニルに対しては2.5ージクロルリングの 3, 4-位にLB400株の0.8倍(KF-707株は この化合物に対する活性を有しない)の活性で酸素を導 入し得ることも分かった。さらに、ジフェニルメタンに 対してはKF707株の1.2倍(LB400株はこの化 合物に活性なし)、ジベンゾフランに対してはLB40 O株の0.5倍(KF707株はこの化合物に活性なし) の活性を有していた。

【0035】このように、上記化合物の全てに対して高い分解活性を有する新規なビフェニルジオキシゲナーゼを発現するキメラbphA1遺伝子が得られたことが示された。得られた該キメラbphA1遺伝子をDNAシーケンサー(アプライドバイオシステム社製373A)により分析し、配列番号1のアミノ酸配列および配列番号2の塩基配列を有することを確認した。

【0036】また、組換え大腸菌の別の1種は、ビフェニルに対しては、KF707株の1.2倍、LB400株の1.5倍、4ークロルビフェニルに対しては、KF707株の1.2倍、LB400株の1.5倍、4,4'ージクロルビフェニルに対しては、KF707株の1.8倍(LB400株はこの化合物に活性なし)の分解活性を示した。そして、2,5,4'ートリクロロビフェニルに対してはKF707株と同様、4'ークロルリングの2,3'ー位で酸素分子を導入(LB400株は2,5ーリングの3,4ー位に導入)することができ、その活性は

1.5倍であることが示された。また、ジフェニルメタンに対してはKF707株の1.2倍(LB400株はこの化合物に活性なし)、ジベンソフランに対しては、LB400株の0.3倍(KF707株はこの化合物に活性なし)の分解活性を有していた。

【0037】すなわち、この大腸菌の静止菌体中に発現されたBP Doxは上記化合物の全てに対して高い分解活性を有することが示された。さらに、この組換え大腸菌は、KF707株およびLB400株由来の酵素が全く分解できないベンゼン、トルエンに対しても分解活性を示し、インドールからインジゴを産生することが認められた。このキメラbphA1遺伝子をDNAシーケンサーで分析することにより配列番号3のアミノ酸配列および配列番号4の塩基配列を有することを確認した。

【0038】これらのPCB高分解性酵素コードするキ

メラbphA1のアミノ酸配列をKF707株、LB400株およびクローニングにより選択されたが分解能が低い他のキメラbphA1のアミノ酸配列と比較して示したのが図3である。図に示すように、本発明のPCB高分解性キメラbphA1 [図3のC (配列番号3または4に対応)およびD (配列番号1または2に対応) およびその他のキメラbphA1 (図3のE~H)は、親株であるKF707株 (図3のA)とLB400株 (図のB)の間で異なる20個のアミノ酸部分の塩基配列の組換えにより生じたものであり、異種のPCB分解菌由来のbphA1遺伝子のランダムなシャフリングにより試験したPCBおよびその関連化合物の分解に活性な新規なビフェニルジオキシゲナーゼ酵素が得られることが分かる。

【配列表】

SEQUENCE LISTING

Japan Science and Technology Corporation <110> Genes encoding enzymes which catalyze decompositions of PCB <120> and related compounds (PCBおよび関連化合物を分解する酵素をコ ードする遺伝子) P0203T <130> <160> <120> 1 <211> 458 PRT <212> Pseudomonas pseudoalcaligenes <213> Burkholderia cepacia <400> Met Ser Ser Ile Lys Glu Val Gln Gly Ala Pro Val Lys Trp Val Thr Asn Trp Thr Pro Glu Ala Ile Arg Gly Leu Val Asp Gln Glu Lys 25 20 Gly Leu Leu Asp Pro Arg Ile Tyr Ala Asp Gln Ser Leu Tyr Glu Leu 35 Glu Leu Glu Arg Val Phe Gly Arg Ser Trp Leu Leu Gly His Glu 50 Ser His Val Pro Glu Thr Gly Asp Phe Leu Ala Thr Tyr Met Gly Glu Asp Pro Val Val Met Val Arg Gln Lys Asp Lys Ser Ile Lys Val Phe Leu Asn Gln Cys Arg His Arg Gly Met Arg Ile Cys Arg Ser Asp Ala 105 100 Gly Asn Ala Lys Ala Phe Thr Cys Ser Tyr His Gly Trp Ala Tyr Asp 125 115 120 Ile Ala Gly Lys Leu Val Asn Val Pro Phe Glu Lys Glu Ala Phe Cys 140 130 135 Asp Lys Lys Glu Gly Asp Cys Gly Phe Asp Lys Ala Glu Trp Gly Pro 160 155 145 150 Leu Gln Ala Arg Val Ala Thr Tyr Lys Gly Leu Val Phe Ala Asn Trp 165 175 170

Asp Val Gln Ala Pro Asp Leu Glu Thr Tyr Leu Gly Asp Ala Arg Pro Tyr Met Asp Val Met Leu Asp Arg Thr Pro Ala Gly Thr Val Ala Ile Gly Gly Met Gln Lys Trp Val Ile Pro Cys Asn Trp Lys Phe Ala Ala Glu Gln Phe Cys Ser Asp Met Tyr His Ala Gly Thr Met Ser His Leu Ser Gly Ile Leu Ala Gly Met Pro Pro Glu Met Asp Leu Ser Gln Ala Gln Ile Pro Thr Lys Gly Asn Gln Phe Arg Ala Ala Trp Gly Gly His Gly Ser Gly Trp Phe Val Asp Glu Pro Gly Met Leu Met Ala Val Met Gly Pro Lys Val Thr Gln Tyr Trp Thr Glu Gly Pro Ala Ala Asp Leu Ala Glu Gln Arg Leu Gly His Thr Met Pro Val Arg Arg Met Phe Gly Gln His Met Ser Val Phe Pro Thr Cys Ser Phe Leu Pro Ala Ile Asn Thr Ile Arg Thr Trp His Pro Arg Gly Pro Asn Glu Ile Glu Val Trp Ala Phe Thr Leu Val Asp Ala Asp Ala Pro Ala Glu Ile Lys Glu Glu Tyr Arg Arg His Asn Ile Arg Asn Phe Ser Ala Gly Gly Val Phe Glu Gln Asp Asp Gly Glu Asn Trp Val Glu Ile Gln Lys Gly Leu Arg Gly Tyr Lys Ala Lys Ser Gln Pro Leu Asn Ala Gln Met Gly Leu Gly Arg Ser Gln Thr Gly His Pro Asp Phe Pro Gly Asn Val Gly Tyr Val Tyr Ala Glu Glu Ala Ala Arg Gly Met Tyr His His Trp Met Arg Met Met Ser Glu Pro Ser Trp Ala Thr Leu Lys Pro <210> <211> <212> DNA <213> Pseudomonas pseudoalcaligenes Burkholderia cepacia <400> atgageteat caatcaaaga agtgeagga geeeetgtga agtgggttae caattggaeg ccggaggcga tccgggggtt ggtcgatcag gaaaaagggc tgcttgatcc acgcatctac gccgatcaga gtctttatga gctggagctt gagcgggttt ttggtcgctc ttggctgtta cttgggcacg agagtcatgt gcctgaaacc ggggacttcc tggccactta catgggcgaa gatccggtgg ttatggtgcg acagaaagac aagagcatca aggtgttcct gaaccagtgc cggcaccgcg gcatgcgtat ctgccgctcg gacgccggca acgccaaggc tttcacctgc agctatcacg gctgggccta cgacatcgcc ggcaagctgg tgaacgtgcc gttcgagaag

gaagcetttt gegacaagaa agaaggegae tgeggetttg acaaggeega atggggeeeg

```
ctccaggcac gcgtggcaac ctacaagggc ctggtctttg ccaactggga tgtgcaggcg
ccagacctgg agacctacct cggtgacgcc cgcccctata tggacgtcat gctggatcgc
acgccggccg ggactgtggc catcggcggc atgcagaagt gggtgattcc gtgcaactgg
aagtttgccg ccgagcagtt ctgcagtgac atgtaccacg ccggcaccat gtcgcacctg
                                                                   720
tccggcatcc tggcgggcat gccgccggaa atggacctct cccaggcgca gatacccacc
                                                                   780
aagggcaatc agttccgggc cgcttggggc gggcacggct cgggctggtt cgtcgacgag
                                                                   840
ccgggcatgc tcatggcggt gatggggccc aaggtcaccc agtactggac cgaaggtccg
gctgccgacc tggcagaaca gcgactgggc cacaccatgc cggttcgacg catgttcggc
cagcacatga gcgtcttccc gacctgctcg ttcctcccgg ccatcaacac catccggacc 1020
tggcacccgc gcggccccaa cgaaatcgaa gtgtgggcct tcaccttggt cgatgccgat 1080
gccccggccg agatcaagga agaatatcgc cggcacaaca tccgaaactt ctccgcaggc 1140
ggcgtgtttg agcaggacga tggcgagaac tgggtggaga tccagaaggg gctacgtggg 1200
tacaaggcca agagccagcc gctcaatgcc cagatgggcc tgggtcggtc gcagaccggt 1260
caccetgatt tteetggeaa egteggetae gtetaegeeg aagaagegge geggggtatg 1320
tatcaccact ggatgcgcat gatgtccgag cccagctggg ccacgctcaa gccctga
                                                                   1377
<210>
        3
        458
<211>
<212>
        PRT
<213>
        Pseudomonas pseudoalcaligenes
        Burkholderia cepacia
<400>
Met Ser Ser Ser Ile Lys Glu Val Gln Gly Ala Pro Val Lys Trp Val
Thr Asn Trp Thr Pro Glu Ala Ile Arg Gly Leu Val Asp Gln Glu Lys
             20
Gly Leu Leu Asp Pro Arg Ile Tyr Ala Asp Gln Ser Leu Tyr Glu Leu
                                                  45
         35
Glu Leu Glu Arg Val Phe Gly Arg Ser Trp Leu Leu Gly His Glu
                                              60
                          55
     50
Ser His Val Pro Glu Thr Gly Asp Phe Leu Ala Thr Tyr Met Gly Glu
                      70
 65
Asp Pro Val Val Met Val Arg Gln Lys Asp Lys Ser Ile Lys Val Phe
                  85
Leu Asn Gln Cys Arg His Arg Gly Met Arg Ile Cys Arg Ser Asp Ala
                                 105
             100
Gly Asn Ala Lys Ala Phe Thr Cys Ser Tyr His Gly Trp Ala Tyr Asp
                                                 125
        115
                             120
Ile Ala Gly Lys Leu Val Asn Val Pro Phe Glu Lys Glu Ala Phe Cys
                         135
                                             140
    130
Asp Lys Lys Glu Gly Asp Cys Gly Phe Asp Lys Ala Glu Trp Gly Pro
                                                             160
                                         155
                     150
145
Leu Gln Ala Arg Val Ala Thr Tyr Lys Gly Leu Val Phe Ala Asn Trp
                                                         175
                                    - 170
                 165
Asp Val Gln Ala Pro Asp Leu Glu Thr Tyr Leu Gly Asp Ala Arg Pro
                                                      190
                                 185
             180
Tyr Met Asp Val Met Leu Asp Arg Thr Pro Ala Gly Thr Val Ala Ile
                             200
                                                 205
         195
 Gly Gly Met Gln Lys Trp Val Ile Pro Cys Asn Trp Lys Phe Ala Ala
                                             220
     210
                         215
 Glu Gln Phe Cys Ser Asp Met Tyr His Ala Gly Thr Met Ser His Leu
```

```
235
                                                            240
225
                    230
Ser Gly Ile Leu Ala Ala Met Pro Pro Glu Met Asp Leu Ser Gln Ala
                                    250
                                                        255
                245
Gln Ile Pro Thr Lys Gly Asn Gln Phe Arg Ala Gly Trp Gly Gly His
                                                     270
            260
                                265
Gly Ser Gly Trp Phe Val Asp Glu Pro Gly Met Leu Met Ala Val Met
                                                285
                            280
        275
Gly Pro Lys Val Thr Gln Tyr Trp Thr Glu Gly Pro Ala Ala Glu Leu
    290
                        295
                                             300
Ala Glu Gln Arg Leu Gly His Thr Met Pro Val Arg Arg Met Phe Gly
                                        315
                    310
305
Gln His Met Ser Val Phe Pro Thr Cys Ser Phe Leu Pro Ala Ile Asn
                                                         335
                325
                                    330
Thr Ile Arg Thr Trp His Pro Arg Gly Pro Asn Glu Ile Glu Val Trp
                                345
                                                     350
            340
Ala Phe Thr Leu Val Asp Ala Asp Ala Pro Ala Glu Ile Lys Glu Glu
                                                 365
        355
                             360
Tyr Arg Arg His Asn Ile Arg Thr Phe Ser Ala Gly Gly Val Phe Glu
                        375
                                             380
    370
Gln Asp Asp Gly Glu Asn Trp Val Glu Ile Gln Lys Gly Leu Arg Gly
                                                             400
                                         395
385
                     390
Tyr Lys Ala Lys Ser Gln Pro Leu Asn Ala Gln Met Gly Leu Gly Arg
                                     410
                405
Ser Gln Thr Gly His Pro Asp Phe Pro Gly Asn Val Gly Tyr Val Tyr
                                 425
Ala Glu Glu Ala Ala Arg Gly Met Tyr His His Trp Met Arg Met Met
                             440
                                                 445
        435
Ser Glu Pro Ser Trp Ala Thr Leu Lys Pro
    450
<210>
<211>
        1377
        DNA
<212>
        Pseudomonas pseudoalcaligenes
<213>
        Burkholderia cepacia
<400>
atgageteat caatcaaaga agtgeaggga geeeetgtga agtgggttae caattggaeg
ccggaggcga tccgggggtt ggtcgatcag gaaaaagggc tgcttgatcc acgcatctac
gccgatcaga gtctttatga gctggagctt gagcgggttt ttggtcgctc ttggctgtta
cttgggcacg agagtcatgt gcctgaaacc ggggacttcc tggccactta catgggcgaa
                                                                     240
gatccggtgg ttatggtgcg acagaaagac aagagcatca aggtgttcct gaaccagtgc
cggcaccgcg gcatgcgtat ctgccgctcg gacgccggca acgccaaggc tttcacctgc
                                                                     360
agctatcacg gctgggccta cgacatcgcc ggcaagctgg tgaacgtgcc gttcgagaag
                                                                     420
gaagcctttt gcgacaagaa agaaggcgac tgcggctttg acaaggccga atggggcccg
                                                                     480
ctccaggcac gcgtggcaac ctacaagggc ctggtctttg ccaactggga tgtgcaggcg
                                                                     540
ccagacctgg agacctacct cggtgacgcc cgcccctata tggacgtcat gctggatcgc
                                                                     600
acgccggccg ggactgtggc catcggcggc atgcagaagt gggtgattcc gtgcaactgg
                                                                     660
aagtttgccg ccgagcagtt ctgcagtgac atgtaccacg ccggcaccat gtcgcacctg
                                                                     720
                                                                     780
 tccggcatcc tggcggccat gccgccggaa atggacctct cccaggcgca gatacccacc
aagggcaacc agttccgggc cggctgggc gggcacggct cgggctggtt cgtcgacgag
                                                                     840
 ccgggcatgc tcatggcggt gatgggcccc aaggtcaccc agtactggac cgagggtccg
                                                                     900
```

```
gctgccgagc ttgcggaaca gcgactgggc cacaccatgc cggttcgacg catgttcggc 960
cagcacatga gcgtcttccc gacctgctcg ttcctcccgg ccatcaacac catccggacc 1020
tggcacccgc gcggccccaa cgaaatcgaa gtgtgggcct tcaccttggt cgatgccgat 1080
gccccggccg agatcaagga agaatatcgc cggcacaaca tccgcacctt ctccgcaggc 1140
ggcgtgtttg agcaggacga tggcgagaac tgggtggaga tccagaaggg gctacgtggg 1200
tacaaggcca agagccagcc gctcaatgcc cagatgggcc tgggtcggtc gcagaccggt 1260
caccetgatt tteetggeaa egteggetae gtetaegeeg aagaagegge geggggtatg 1320
                                                                  1377
tatcaccact ggatgcgcat gatgtccgag cccagctggg ccacgctcaa gccctga
<210>
<211>
        35
<212>
        DNA
<213>
        Pseudomonas pseudoalcaligenes
<400>
                                           35
ccgaattcaa ggagacgttg aatcatgagc tcagc
       6
<210>
<211>
        25
        DNA
<213>
<213>
        Pseudomonas pseudoalcaligenes
<400>
        6
```

【図面の簡単な説明】

【図1】 DNAシャフリング法により本発明のキメラ bphA1遺伝子を調製する工程を概示する。

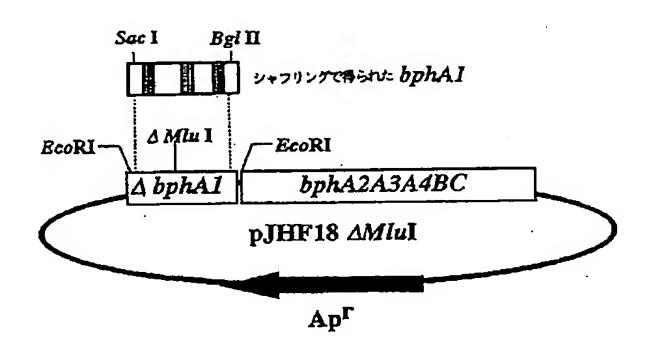
ttgaattctt ccggttgaca gatct

【図2】 キメラbphA1遺伝子および親株のbphA1遺伝子のクローニングおよび発現に用いるのに好適なプラスミドベクターの構成図である。

【図3】 本発明のキメラbphA1遺伝子のアミノ酸配列を親株であるシュードモナス・シュードアルカリゲネスKF707株、バーコルデリア・セパシアLB400株、およびDNAシャフリングで得られたその他のキメラbphA1の遺伝子のアミノ酸と比較して示すものである。

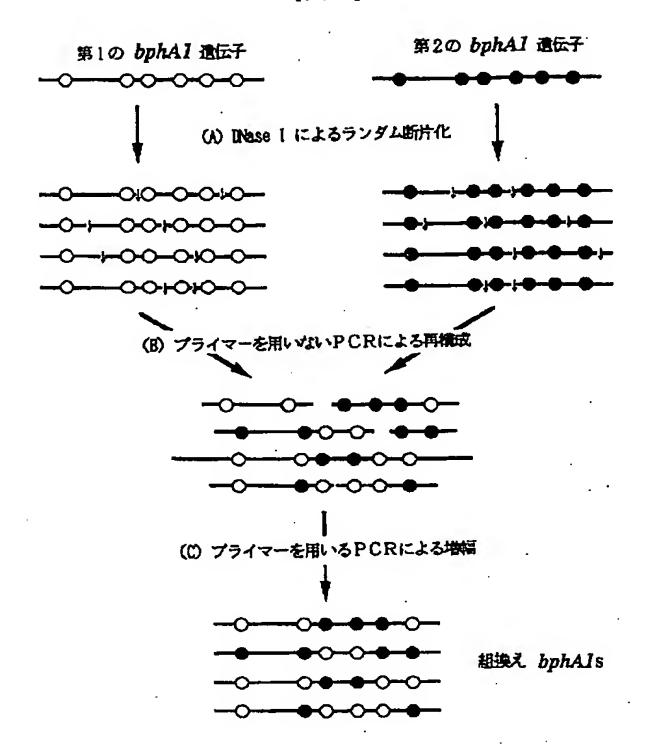
【図2】

25



テーマコード(参考)

[図1]



[図3]

S	MSM	HV	G F	MMD	- FSV	AITT	T
Λ	TTI	Q١	A Y	SLE	G VII	TENI	N
S	MSM	QI	G F	MME	- PSV	AITT	T
S	MSM	Q1	A F	MMD	- FSV	TTLA	Z
·S	TTI	Q1	AY	SLE	- FSV	AIT	N
S	MSM	ΗV	ΛP	ммо	G 1 3V	AITT	T. N
S	ТМ	QL	A Y	SLD	- FSV	AITT	N
S	MSM	ÜΙ	AY	SLD	- VIII	TFNI	N

フロントページの続き

FI (51) Int.Cl.⁷ 識別記号 ZNA (C 1 2 N 15/09 C 1 2 R 1:38 1:01) (C 1 2 N 1/20 C 1 2 R 1:38) (C 1 2 N 1/20 C 1 2 R 1:01)

(C 1 2 N 1/21

C 1 2 R 1:19)

(C 1 2 N 9/02

C 1 2 R 1:19)